

「ろう者の震災」映画に感動

ローマ国際ろう映画祭で、手話であいさつする今村彩子さん（左）（11月30日、ローマで）＝青木佐知子撮影



ローマで上映

【ローマ＝青木佐知子】

ローマ国際ろう映画祭で11月30日、名古屋市の映像作家、今村彩子さん(34)のドキュメンタリー映画「架け橋」が上映された。

自身も耳が不自由な今村さんは、東日本大震災直後の2011年3月22日、被災地のろう者が心配で宮城県入り。作品では、津波警報が聞こえず、逃げ遅れそうになった夫婦や、避難所で情報が得られずに不安な日々を送る女性の姿などを細やかに記録した。

今年で2回目となる同映画祭では3日間にわたって、ろう者を題材にした世界の映画約40本を上映。「架け橋」は、コンペティションに参加しない特別作品として上映された。企画したルカ・ビアンキさん(39)は「イタリアでもろう者への情報は不十分で、災害時の情報伝達は大事な問題。初めて作品を見た時、涙が出た」と高く評価する。

会場には今村さんも日本から招待され、イタリア人ら観客約300人が鑑賞した。上映後、「感動した」「政治家に見せた」といった感想を手話で次々に伝えられた今村さんは、「イタリアも日本も地震大国。国が違っても、情報の大切さを共感してもらえてうれしい」と笑顔を見せた。